

授業設計コンサルティングで効果的かつ魅力的な授業を

～インストラクショナル・デザインの手法を用いたブレンディッドラーニングの設計～

対面授業とeラーニング 組み合わせの最適値を探る

昨年度、一回生全員が受講する「日本語リテラシー入門」担当教員のチーム会から、「1,900名の学生に対し、11名の教員でどのように授業を行うか」という授業設計コンサルティングの依頼を受けました。

今回のコンサルティングは、まず最初にクラスサイズの変更も検討しつつ、「ガニエの9教授事象※1」と呼ばれる、学習プロセスを9つに分類した、授業構成を考える枠組みを参考にしました。



担当教員とのミーティング

まず、「この授業で、何ができるようにすればよいのか」という授業目標を達成する方法として「対面授業」がどの程度必要で「eラーニング」による効果がどの程度見込めるのかを確認することから始めました。そして、双方の長所を組み合わせ、今おかれている環境の中での最適値となる構成を作り上げました。

eラーニングにおける 学生のモチベーションを醸成

授業展開は、受講する学生が置かれている状況や、環境に適したものであることが重要です。一番大切なのは「学生が自主的に学ぼうとする意欲」です。特にeラーニングを取り入れた場合、学生の自主性に委ねるところが多分にあるため、いかにモチベーションを維持できるかがポイントです。

そこで、学生自身が「何ができれば合格なのか」を明確に理解できることが必要です。ARCS 動機づけ理論※2 でいうと、学生の学びに関する「関連性」（それを学ぶことでどのような効果があるのかを理解している）であったり、「できた!ステップアップした!」という「自信」に繋がる仕掛けを用意する必要があります。

効果的で魅力的な授業には 具体的で明確な工夫が必要

対面授業でグループワーク等を活用し、学生間の相互評価を取り入れることで、より効果的な授業へと進化させることが可能です。

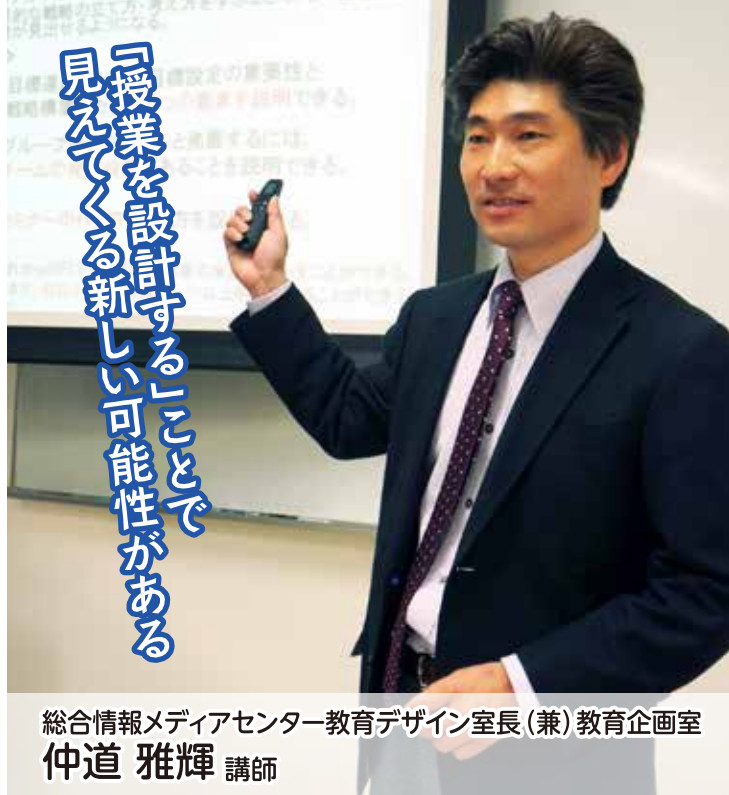
しかし、eラーニングは対面授業とは違い、学生の自己管理の中で行うため、単に「課題を提出してください」「ディスカッションを行ってください」では効果がありません。



「日本語リテラシー入門」チーム会

例えば、「他の2名以上の学生のレポートに対してコメントすること」を課題達成の要件とすることで「必ずそこまでやらなければいけない」という外的要因が生まれます。実際にディスカッションが始まると、自分の提出したレポートに対してコメントをもらい、相手にもコメントする、という自然なやりとりが始まります。コメントのルールも「良い点の一つ、改善案やアイデアの一つ」と、具体的に指示し、ディスカッションを活性化させるというところまで設

授業を設計する「こと」で見えてくる新しい可能性がある



総合情報メディアセンター教育デザイン室長(兼)教育企画室 仲道 雅輝 講師

計しました。「練習問題」については、合格基準を「80%以上」と具体的に示し、ランダム出題で繰り返し取り組めるようにしました。それにより、問題の解答・解説を繰り返し学習することで、テキストを読みこなすことにつながり、学びが定着しました。

専門スタッフとの連携で 不安感・負担感を払拭

「日本語リテラシー入門」の担当教員はeラーニングの導入が初めての方が多く、当初は不安感・負担感を感じていました。

授業設計のコンサルティングを行った教育デザイン室には、授業設計の専門家であるインストラクショナルデザイナーが在籍しており、またMoodleなど様々なツールの専門スタッフもいます。チームで授業の再設計に取り組むことで、教員の時間的負担が軽減するだけでなく、「相談者がいる」という安心

感を感じられたことも設計を完遂するポイントになったと思います。

後日、担当教員からは「授業を、学生含め皆で創り上げている感覚があった」、「さまざまな教育方法を学ぶことができた」などの声をいただきました。

愛媛大学における 授業設計コンサルティングの展望

今回の授業設計では対面授業とeラーニングを組み合わせ「ブレンディッドラーニング」を用いました。今後はこの授業の効果検証を行い、その成果を学内に発信したいと考えています。そして、「授業をデザイン・設計する」という視点が全学に浸透するよう教育デザイン室をあげて努力していきたいと思っています。

教育デザイン室では、授業をより魅力的にする授業の再設計の支援ができればと考えています。まずは、お気軽にご連絡ください。

- ※1：ガニエの9教授事象…学習プロセスを9つに分類し、教材の構成を考えるための枠組み。
- ※2：ARCS 動機づけ理論…学習意欲を高めるための方策を、注意・関連性・自信・満足 の4つに整理したもの。

「日本語リテラシー入門」の設計

メディア授業 (eラーニング) の流れ

- ◆受講期間内に、開講回数4回をすべて受講すること
- ◆回に応じて、各課題をMoodle上で行うこと

共通

章の学習内容を確認するための、動画を視聴すること



授業の振り返り (ポータルフォリオ)



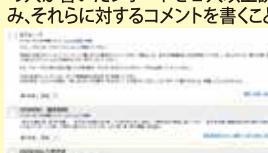
2回目

確認問題を解き、合格点 (80%) に達すること



4・6・8回目

章の確認問題としてミニレポートを作成・提出し、各問題について他の人が書いたレポートを2人以上読み、それらに対するコメントを書くこと



8回目

最終試験を受験すること

